

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036	事業の開始年月日	2011年7月1日	
		指定年月日	2011年7月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名：かもめ			
所在地	(〒 981-0212) 宮城県宮城郡松島町磯崎字長田 8 0 - 2 2 2			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年2月14日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い中庭があり、季節に合わせた畑作業や散歩等、活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。
ユニット理念に掲げているように、常に笑いのあるゆっくりした生活の場を提供できるよう、入居者様とスタッフが一緒に過ごす空間の目指しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

法人の運営理念のもとユニットの介護理念は、
<かもめユニット> 「急がず、楽しく、笑って毎日過ごしましょう」
<ちどりユニット> 「安心して下さい。私達がそばにいます。」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「コスモスケア株式会社」は、地域に貢献する総合福祉サービスを松島町と仙台市内を中心に事業を運営している。「グループホームコスモス松島」は、松島海岸に近い松島町磯崎の住宅地に平屋建ての2ユニットで2011年7月に開所した。隣には同法人の小規模多機型居宅介護「コスモス松島マルチケア」があり、連携を図っている。近隣には、病院、コンビニ、郵便局等がある。

【事業所の優れている点】

①理念の実現に向けて取り組んでいる

ユニットごと職員は、理念を念頭に入居者が毎日ゆっくり安心して笑顔で暮らせるようケアに努めている。

②地域交流を積極的に行っている

以前からこの地域で生活していた入居者が多く、ホームが馴染みの場所でもあり、地域住民や町内会との関係性が継続している。恒例のホームの夏祭りには地域住民や高校生、ボランティアが多数参加し交流を深めている。毎月開催されている「コスモスカフェ」には地域住民の参加が多く、毎回テーマを決めて講話を行ったり、入居者と作品作りを楽しんでいる。運営推進会議では区長から活発に意見が出され検討したり、避難訓練にも参加し協力が得られている。

③常勤看護師が配置されている

ホームには常勤看護師が配置されており、毎日の健康チェックや健康管理、職員へのアドバイスも行われている。入居者の状態に合わせて通院にも同行している。

【工夫点】

①家族の意見を聞くために取り組んでいる方法

毎月家族に送っている「コスモス松島通信」に、「何かありますか」とタイトルを設けて意見を求めたところ、多くの声が得られるようになった。

②週休3日制を選択制にするなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームコスモス松島
ユニット名	かもめ

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームコスモス松島）「ユニット名：かもめ」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼時間等勤務職員が集い、都度確認をしている。日々のサービス提供に際し、新人からベテラン職員まで理念を意識した支援に努めている。	ユニットごとの理念は、年度末に振り返りを行いながら見直している。法人理念と共に事務室に掲示し、毎日の昼礼時に唱和し、入居者が日々笑顔で過ごせるようにケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の認知症カフェをはじめ、地域の中の施設として活動し、時折相談業務も行っている。夏祭りでは、地域住民の皆様にも参加していただき、交流を図っている。	町内会に加入し、地域の活動には職員が参加している。毎月「コスモスカフェ」を開催し、多くの地域住民が参加し交流を深めている。ホームの夏祭りには、地域住民や学生ボランティアの参加があり、フラダンスや弾き語り、昭和歌謡などで盛り上がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェでの講話の他、認知症サポーター養成講座を実施や行きサロンへ出向いての認知症についての話や相談を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は貴重な意見としてユニットへ提示している。特に、災害時の避難やその際の連携等に関しては高い評価を得ていました。	運営推進会議のメンバーは町職員・各区長・地域包括職員・社協職員で、2ヶ月に1回開催している。ホームからは入居者の状況や活動報告等を行い、メンバーからは災害時に避難する際に地域との連携の取り方について活発な意見が出されている。議事録は職員に回覧し、情報共有をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保健福祉センターの職員とは常に情報共有ができており、サービスの確認に限らず緊急時対応や相談も行えている。	地域包括職員、社協職員とは運営推進会議の他に都度連絡し、情報交換を行っている。また町の高齢福祉班に出向いたり電話で相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは理解できているが、やむを得ない場合の手順や記録など、正しく理解できているスタッフは限られている。今後も委員会活動時にしっかり研修をして、周知していきたい。	身体拘束の適正化等の指針があり、玄関に掲示している。3ヶ月に1回委員会を開催し、マニュアルの確認の他、「検討シート」を用いて事例検討を行い定例会で職員に周知している。日中玄関は施錠していないが、夜間は防犯上21時から翌5時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設立と委員会活動や研修を行い、虐待防止に努めている。	虐待防止委員会を年2回開催し、研修ではマニュアルの確認、ヒヤリハット事例等の検討を行っている。不適切な言葉遣いやケアがあった時は、管理者がその場で指摘し、職員が落ち着いてから説明し指導している。ユニット会議の時に周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会の開催を実施し周知に努めているが、職員の理解にはバラつきがあるので、今後も継続して勉強会や外部研修を利用し職員全体の理解度を上げるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除についてはご家族様に同席を頂き説明の場を設けている。又、契約に変更等が発生した場合も都度文書にて通知を行い、不明な点があれば連絡をいただき説明を行う事で、理解・納得頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に現状報告、その上で意見や要望を都度うかがっている。ケアに変更があれば、計画作成担当者より家族様へ電話連絡を行ない意見を伺っている。計画作成担当者は報告後、管理者・ユニット職員へも報告し周知、反映を行っている。	現在は面会を制限無しで再開しており、面会時や電話で家族の意見や要望を聞いている。また毎月送付している「コスモス松島通信」に、家族が意見・要望を記入できる用紙を添えたところ、以前より意見・要望が多く出されるようになり、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を実施し、運営について職員から意見を頂いている。頂いた意見を素早く反映出来るよう、定例会の場だけでなく日常的に管理者、副管理者、リーダー、各職員間でコミュニケーションを図り、意見の抽出・反映に努めている。	毎月の定例会で運営について職員の提案や意見を聞いている。また年2回管理者と面談を行い目標を設定し、半年ごと目標の達成状況など振り返り、話し合っている。外国人も雇用しており、日常的にも職員同士でサポートし合いながら、気軽に意見を言える雰囲気ができている。資格取得時はアプリでの勉強や費用面の補助もある。週休3日制を選択できるようにしたり、働きやすい職場環境づくりを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内でのキャリアパス制度や、外部や内部研修を行う事で必要な知識の習得や向上心を持って働ける環境作りに努めている。又週休三日制の導入等、働き方改革、働く人のライフワークバランスにも配慮した取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が個人目標の設定を行い且つ個人面談を行い職員の技量等の把握に努めている。また研修参加を奨励し、研修参加費の一部負担を実施、勤務調整を行う事で、より研修に参加しやすい環境を整えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加を奨励し同業者との「横の繋がり」にも配慮している。また内務研修においても、社内の他事業所との交流を行い、自身が提供するサービスの振り返りを行える環境を整えサービス向上に努めている。	管理者は、年2回開催される町の「地域包括ケア会議」の企画から携わり、地域の他事業所の職員と交流し情報交換をしている。同法人の職員とは、横の繋がりを大事にしたレクリエーションの企画があり、交流している。医療面ではかかりつけ医や常勤の看護師からアドバイスを得ている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査に加え入所に際し改めて本人様並びに家族様へもヒアリングを行い要望等の把握、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて家族様の希望等ヒアリングを行っている。入所されてからも適宜連絡を取り家族様の要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査では把握できなかった部分に関しても、入所された本人様の状態を改めて確認し、適切なサービスを提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ににとって満足の高い生活を目指し本人様の訴えを傾聴し、職員間でその情報をケアカルテや業務日誌で共有、支援に活かせるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や定期的に本人様の様子を家族様へ手紙として届けている。それ以外でも必要と感じた時には連絡を取り情報共有を行いながら共に本人様を支える関係構築に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に家族の写真や思い出の物を置く等の環境整備を行うと共に、外出の機会を設け、馴染みの場所へ足を運んだり、面会を通して友人に会える機会を設ける等の支援に努めている。	入居者は以前から住み慣れた町なので、馴染みの店に買い物に行ったり、散歩の時などに近所の人と挨拶を交わしている。家族と外出時に外食したり、自宅に外泊する人もいる。訪問理・美容を利用する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係を深められるように共通のレクリエーションの提供やおやつ時間にスタッフも一緒に利用者様の輪に入り会話を取り持つ等の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後でも、家族様からの相談には都度対応している。また認知症カフェへの参加を呼び掛ける等、サービス終了後であっても関係性の維持・継続に努めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には希望を伺い出来るだけ希望に添えるよう支援を心掛けている。また意思疎通が難しい方についても、生活歴や家族様へ話を伺いながら職員間で検証・共有し、今の本人様が必要としている支援を提供できるよう努めている。	入居時に家族から生活歴を聞いたり、本人から好きなことやしたいことを聞き取り、職員間で情報共有してケアに活かしている。入浴時や夜にゆっくり談笑しながら聞き取ることもある。日常生活の中での何気ない動作や仕草からも思いを把握するように努めている。入居してから、計算問題を説くのが好き、歌が好きなど、家族も知らなかったことが把握できケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や本人様、家族様へヒヤリングを行いこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからの様子観察を日々職員間で共有し、実態調査等での情報と実生活での情報とのすり合わせを行い出来る事出来ない事、本人様の想いも加味しながら現状の把握に努めている。			
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の状態については職員間で日々業務日誌やケアカルテを用いて情報の共有を行いながら、必要と考えられる支援を適宜各職員が提案し実践を行っている。かかりつけ医や家族様からの情報も踏まえ、今必要な支援を本人様へ提供出来る様な介護計画の作成に努めている。	職員は、毎月、業務日誌やケアカルテでサービス内容や状態の変化などを確認し、評価を行っている。介護計画の3ヶ月ごとの見直しの際には、家族の希望など意見を聞いたり、医師・看護師からの意見も取入れ作成している。作成した介護計画は家族の面会時や電話で同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個々の日々の出来事は業務日誌、ケアカルテを使用し記録を行い職員間で情報共有を行っている。また集まった情報から新たな気づきや振り返りを行い介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様個々の通院や買い物支援は行っているが、施設に居る事で出来る事を増やすべく、職員間でも日々模索している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行っているものの、入居者様への地域資源の活用はまだ至っていないケースは少ない。 様々な地域との交流を今後も図り、入居者様の生活へ活かせるよう努めていく。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の受診については本人様、家族様に納得を頂いた上で受診している。また入居前からのかかりつけ医、入所されて新たなかかりつけ医となる医療機関についても、信頼関係構築に努め、本人様の状態にあって医療が受けられるように努めている。	家族付き添いを基本とし、以前からのかかりつけ医を受診することもできる。協力医療機関は月2回訪問診療を行っている。内科以外の通院も家族付き添いを基本としているが、家族が付き添えない場合は、常勤の看護師が同行し、受診結果を家族と情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在籍しているので入居者様の日々の状態観察、バイタル測定等での体調変化を感じる場合から、些細なことでも報告相談している。その結果から通院に繋がるケースもあるので今後も継続して協働に努めたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した場合には介護サマリーを使用し病院側へ本人様に関する情報提供を行っている。また病院の医療連携室とも情報共有を行い必要な連携が図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設において終末期ケアの提供は行っていない為その前段階である重度化された場合であっても、本人様の希望、家族様の希望を伺いながら施設として出来る事、出来ないことを説明し対応にあたっている。どの様な場合でも施設として寄り添い支援できることに注力している。	看取りは行っていない。入居時に「看取りに関する指針」でホームでできること、できないことを説明している。重度化した時は医師から説明があり、家族と話し合いながら病院や他の介護施設と連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で知識や対応力にばらつきが出ない様定期的な勉強会の開催や緊急対応時のマニュアルを整備を行い備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い緊急時の対応の周知に努めている。地域での役割を考え運営推進会議等で地域の皆様から頂いた御意見を基に協力体制の構築に努めている。	火災・風水害・地震対応マニュアルの他に津波災害対応マニュアルも設け、町のハザードマップを掲示している。年2回、避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で行っている。津波災害時には隣の同法人の小規模多機型居宅介護「コスモス松島マルチケア」の2階に垂直避難する。非常食や備品は2階に3日分保管されている。設備点検は、年2回業者が行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識しているが、気を付けるべき点はあるので職員間で連携し不適切な声掛けをしないよう今後も継続していく。	毎年、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼び名は苗字か名前に「さん」を付けて呼んでいる。トイレへの誘導は羞恥心に配慮し、声掛けを工夫しながらさりげなく行っている。居室に入室時はノックと声掛けで確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様からの訴えについて些細なことでも職員間で共有し自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態を職員間で共有し無理のないよう様子を見ながら支援の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の行う整容介助に加え、爪切りも定期的に行なっている。また家族様からのプレゼント（アクセサリーや衣服）を着用し写真を撮る等、生活に彩りを加えられるように努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食やレクリエーション活動で食事を楽しめる機会を作り提供している。本人様の状態に合わせ自助具を使用し自力摂取出来るよう支援を行っている。また入居者様に皿と一緒に拭いて頂く等の取り組みも行っている。	朝食と毎食のご飯と味噌汁は手作りし、昼・夕飯のおかずはチルド食を利用し提供している。入居者は、盛り付けや後片付けなどできることを担って、職員と一緒にしている。行事食や季節の郷土料理、誕生日には本人の好きなメニューを用意しケーキでお祝いしている。庭の畑で収穫した夏野菜や白菜、じゃがいも等も食材に取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の能力に合わせ食べるための自助具を使用したり、食材をカットする等摂取しやすい形状や仕様を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ない、常に心掛け実践している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの理解までには至っていないが、訴えのある方には訴え時、訴えの無い方についても定時の排泄支援を行っている。トイレ誘導の方については、出来る事は出来るだけ御自身で行っていただき、行き過ぎた支援を行わないように努めている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけや誘導でトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は、睡眠を妨げないよう大きめのパッドを使用したり状態に合わせて対応している。転倒防止対策としてセンサーや見守りシステムを導入している。便秘対策として朝食に牛乳やヨーグルトなど乳製品を提供している。水分摂取量のチェックや運動も取り入れているが、状態により看護師に相談して医師から薬を処方される人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前の軽い体操や水分摂取を促すなど日常的に取り組んでいる。水分の摂取量についても都度記録を行い一日の摂取量の把握をおこなう等、便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の勤務数等に影響されやすい支援の為、本人様の希望する時間に充分対応できていない部分もあると感じている。しかしながら気持ちよく入浴して頂く為に整理整頓や環境整備に注力し、入って良かった、気持ち良かったと言っただけの様な入浴支援を行っている。	週2～3回を基本に入浴しており、湯はたし湯で一人ひとりの好みの湯温に合わせている。入浴を嫌がる人でも声がけなど工夫して促すと、ゆっくり気持ちよく入浴を楽しんでいる。本人の状態に合わせて、安全に配慮しながらリフト浴やシャワー浴、足浴での対応もしている。入浴後は、皮膚の状態を確認し刺激の少ない保湿クリームを塗ってケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人ひとりの生活のリズムを大切にしている。日々の本人様の様子を確認しながら職員間で状態を把握し些細なことでも申し送り等で情報共有を行い、穏やかな時間を過ごせる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設での服薬についてはすべて職員側が管理しており、定期薬の内容についても確認を行っている。定期薬以外でも処方された薬については職員間で申し送り情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみごとの提供を目指してはいるが、充分ではないと感じている。今後も入居者様の趣向やニーズの抽出に務め、QOL向上に繋がるように取り組んでいきたい。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外への外出は、お花見程度であまり行っておりません。外出機会を設けられるよう、来年度はお出かけ行事を増やすように企画しております。	コロナ禍以降、年間計画していた外出を自粛している。天気の良い日は車いすの人も一緒に、近所を散歩しており、春には桜並木を散策し楽しんでいる。近所のお店に買い物に行ったり、ウッドデッキに出て日光浴をしたり、畑で野菜を育てるなど、外に出る機会を設けている。家族と通院時にドライブや外食を楽しんだり、外泊する人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はスタッフにより行っております。購入物品の希望も特に聞かれないため、こちらから聞き出しながら、必要な物や好みのもので購入支援できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフによる家族へのお手紙の作成や郵送は行っておりますが、ご自身で意欲的に行う方は現況少ない状況です。ご家族や知人も高齢で、以前ほど来所されたり、連絡をいただき機会も少なくなっているため、他の交流機会を模索しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示物や写真を掲示しております。皆様、掲示物を見たり、写真を振り返ったりして自由に過ごしていただいております。	日当たりの良い広いリビングは、ウッドデッキに繋がっており、天気の良い日にはひなたぼっこが楽しめる。日中リビングで多くの利用者が一緒に過ごしている。壁には時計・日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けられ、入居者と一緒に手作りした作品が飾られている。毎日、食事の献立を大きく掲示し利用者の楽しみになっている。温・湿度は環境係が管理し、換気は午前と午後の2回行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現状では見知った中での入居者間で安心して過ごせるようにしておりますが、新規で入られた方などがいた際には、早めに慣れていただけるよう様々な工夫しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持参されたものや慣れ親しんだものを飾ったり、ご自身のお部屋として認識していただくよう工夫している。今のところ、皆様安心して過ごせていただいております。	見当識に配慮し、入口に表札を掛けている。居室にはベッド・クローゼット・エアコン・カーテンが設置されている。入居者はタンス・机・椅子など馴染みの物を持ち込んでいる。家具などは、本人の希望や動線を考慮して配置している。壁には家族の写真や作品など飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内や共有部分もできる部分のご自身で移動や整理ができるように配置を工夫しております。ADL面で不安がある場合には、本人やご家族への説明の上で、配置変更を行っております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036	事業の開始年月日	2011年7月1日	
		指定年月日	2011年7月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名：ちどり			
所在地	(〒 981-0212) 宮城県宮城郡松島町磯崎字長田 8 0 - 2 2 2			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年2月14日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い中庭があり、季節に合わせた畑作業や散歩等、活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。ユニット理念にもある、職員が常に近くで、入居者様と一緒に生活を送っているというイメージを大切に、ごく当たり前の生活(行事、地域活動や施設内清掃等)を可能な限り施設に入所しながらでも送れるように取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

法人の運営理念のもとユニットの介護理念は、
<かもめユニット> 「急がず、楽しく、笑って毎日過ごしましょう」
<ちどりユニット> 「安心して下さい。私達がそばにいます。」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「コスモスケア株式会社」は、地域に貢献する総合福祉サービスを松島町と仙台市内を中心に事業を運営している。「グループホームコスモス松島」は、松島海岸に近い松島町磯崎の住宅地に平屋建ての2ユニットで2011年7月に開所した。隣には同法人の小規模多機能型居宅介護「コスモス松島マルチケア」があり、連携を図っている。近隣には、病院、コンビニ、郵便局等がある。

【事業所の優れている点】

①理念の実現に向けて取り組んでいる

ユニットごと職員は、理念を念頭に入居者が毎日ゆっくり安心して笑顔で暮らせるようケアに努めている。

②地域交流を積極的に行っている

以前からこの地域で生活していた入居者が多く、ホームが馴染みの場所でもあり、地域住民や町内会との関係性が継続している。恒例のホームの夏祭りには地域住民や高校生、ボランティアが多数参加し交流を深めている。毎月開催されている「コスモスカフェ」には地域住民の参加が多く、毎回テーマを決めて講話を行ったり、入居者と作品作りを楽しんでいる。運営推進会議では区長から活発に意見が出され検討したり、避難訓練にも参加し協力が得られている。

③常勤看護師が配置されている

ホームには常勤看護師が配置されており、毎日の健康チェックや健康管理、職員へのアドバイスも行われている。入居者の状態に合わせて通院にも同行している。

【工夫点】

①家族の意見を聞くために取り組んでいる方法

毎月家族に送っている「コスモス松島通信」に、「何かありますか」とタイトルを設けて意見を求めたところ、多くの声が得られるようになった。

②週休3日制を選択制にするなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームコスモス松島
ユニット名	ちどり

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームコスモス松島）「ユニット名：ちどり」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の昼礼にて法人の理念を唱和している。又、ユニット毎の理念を作成し、こちらも毎日唱和を行っている。	ユニットごとの理念は、年度末に振り返りを行いながら見直している。法人理念と共に事務室に掲示し、毎日の昼礼時に唱和し、入居者が日々笑顔で過ごせるようにケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行われている地域の奉仕活動には毎回参加。今年度も7月に地域の方々を招いて夏祭りを開催し、入居者様も含め楽しまれている。	町内会に加入し、地域の活動には職員が参加している。毎月「コスモスカフェ」を開催し、多くの地域住民が参加し交流を深めている。ホームの夏祭りには、地域住民や学生ボランティアの参加があり、フラダンスや弾き語り、昭和歌謡などで盛り上がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第3水曜日に認知症カフェを開催。地域の方々とともに認知症や介護保険に関する講話を行っている。認知症についての相談をしたいとの話もいただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4木曜日に運営推進会議を開催。施設運営についても助言をいただいている。特に、避難訓練や災害時の対応には細かい指導をいただきながら、連携できている。	運営推進会議のメンバーは町職員・各区分長・地域包括職員・社協職員で、2ヶ月に1回開催している。ホームからは入居者の状況や活動報告等を行い、メンバーからは災害時に避難する際に地域との連携の取り方について活発な意見が出されている。議事録は職員に回覧し、情報共有をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ都度担当者の参加をいただいていると共に、必要時に電話連絡や直接市町村へ出向き、協力体制を築いている。	地域包括職員、社協職員とは運営推進会議の他に都度連絡し、情報交換を行っている。また町の高齢福祉班に出向いたり電話で相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止マニュアルを用いての勉強会を実施。又、3ヵ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、ケアの適性の見定めを行っている。	身体拘束の適正化等の指針があり、玄関に掲示している。3ヶ月に1回委員会を開催し、マニュアルの確認の他、「検討シート」を用いて事例検討を行い定例会で職員に周知している。日中玄関は施錠していないが、夜間は防犯上21時から翌5時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止マニュアルを用いての勉強会を実施。又、虐待になりえるような案件があれば、都度ミーティングを行い、虐待防止に努めている。	虐待防止委員会を年2回開催し、研修ではマニュアルの確認、ヒヤリハット事例等の検討を行っている。不適切な言葉遣いやケアがあった時は、管理者がその場で指摘し、職員が落ち着いてから説明し指導している。ユニット会議の時に周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回権利擁護マニュアルを用いての勉強会を実施。又、成年後見制度についても、資料を用いての勉強会の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除についてはご家族様同席のもと説明の機会を設けている。又、契約に改定があれば、文章での通達を行うと共に、質問があれば都度連絡をいただいた上で、説明、理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会を行う際に現状を伝え、意見や要望を都度うかがっている。又、ケアに変更があれば、計画作成担当者よりご家族様へ電話連絡し意見をうかがう。計画作成担当者は電話連絡した際に、管理者はじめ、ユニットへの周知、反映を行っている。	現在は面会を制限無しで再開しており、面会時や電話で家族の意見や要望を聞いている。また毎月送付している「コスモス松島通信」に、家族が意見・要望を記入できる用紙を添えたところ、以前より意見・要望が多く出されるようになり、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を実施し、運営に関する職員の意見を聴取している。又、困ったことがあれば、都度管理者へ報告、反映できるよう、各ユニットに、副管理者やリーダーを配している。	毎月の定例会で運営について職員の提案や意見を聞いている。また年2回管理者と面談を行い目標を設定し、半年ごと目標の達成状況など振り返り、話し合っている。外国人も雇用しており、日常的にも職員同士でサポートし合いながら、気軽に意見を言える雰囲気ができている。資格取得時はアプリでの勉強や費用面の補助もある。週休3日制を選択できるようにしたり、働きやすい職場環境づくりを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を用いて、外部研修や本部での研修の機会を設け、必要な知識の習得ややりがい、向上心を持って働けるよう配慮している。又、週休3日制度を設け、個々の希望のもと、労働時間と休暇のメリハリに配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、職員は目標設定を行い、自身に必要な知識や受けてみたい研修を個人で設定。管理者はこれに応じた研修へ参加できるよう、申し込み、シフトの調整を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や本部に集まったの内部研修の機会を設けて、他施設職員との交流の機会としている。又、管理者が定期的に地域の会議の出席し、情報交換に機会としている。	管理者は、年2回開催される町の「地域包括ケア会議」の企画から携わり、地域の他事業所の職員と交流し情報交換をしている。同法人の職員とは、横の繋がりを大事にしたレクリエーションの企画があり、交流している。医療面ではかかりつけ医や常勤の看護師からアドバイスを得ている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査を実施し、不安や要望を聴取する。入所判定会議を経て、計画作成担当者がご本人様の要望をケアプランに反映させると共に、ユニット職員は入居後にご本人様との交流の機会を多く設けて、安心した生活を送れるよう情報の共有を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にてご家族様が困っていること、不安なことを聴取。都度助言や必要に応じた提案を行い、関係づくりを行っている。又、必要なケアがあれば、都度連絡をとって不安の改善に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で、必要とされるサービスがあれば都度助言や提案を行っている。又、入居判定会議の際に他のサービスが必要と判断されれば、そちらのサービスをお勧めすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を促し、個々の能力を職員が判断しながら、出来ることは積極的に参加いただいている。又、共通して行う事ができやすい、歌や体操の機会を定期的実施し、入居者様同士の関係づくりを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を設けて、ご本人様とご家族様の絆作りを行っている。又、誕生日等にご家族様よりプレゼントがあれば、その時の様子を定期的にご家族様に送っているお手紙に様子を記載、報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時期に合わせて、その時に行ったであろう場所に、町内を中心として出向き、馴染みの関係が途切れないようにしている。又、その際に馴染みの人があれば、そこで会話できる環境を整えている。	入居者は以前から住み慣れた町なので、馴染みの店に買い物に行ったり、散歩の時などに近所の人と挨拶を交わしている。家族と外出時に外食したり、自宅に外泊する人もいる。訪問理・美容を利用する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの考えや特徴、経験に合わせて席の配置を考慮し、関係づくりが行いやすい環境作りに配慮している。又、関係づくりが得意ではない入居者様へは、職員が声を掛ける機会を多く設けて、孤立しない生活を送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においてもご家族様からの相談があれば、都度対応している。又、関係性を断ち切らないよう、契約終了後であっても、ご家族様に認知症カフェへの参加をいただいている等、関係性の継続、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人にケア担当者を割り当て、担当者を中心として、その方の状況を把握したり、希望の聴取を行っている。聴取された内容は、毎月行われるケアカンファレンスにて報告し、検討を行っている。	入居時に家族から生活歴を聞いたり、本人から好きなことやしたいことを聞き取り、職員間で情報共有してケアに活かしている。入浴時や夜にゆっくり談笑しながら聞き取ることもある。日常生活の中での何気ない動作や仕草からも思いを把握するように努めている。入居してから、計算問題を説くのが好き、歌が好きなど、家族も知らなかったことが把握できケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に今までの生活状況やサービス利用の経過などの情報を共有しケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で得た情報を個別記録に残し情報の共有を行っている。又、カンファレンスで話し合い職員の得た情報の集約、現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日サービス内容の評価を行い、日々の情報を共有しつつ、毎月のカンファレンス会議で話し合いケアに繋げている。ご本人や家族様意向、主治医との連携を図りより良い介護計画作成となるよう努めている。	職員は、毎月、業務日誌やケアカルテでサービス内容や状態の変化などを確認し、評価を行っている。介護計画の3ヶ月ごとの見直しの際には、家族の希望など意見を聞いたり、医師・看護師からの意見も取入れ作成している。作成した介護計画は家族の面会時や電話で同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりで得た情報はこの記録に残すと共に、毎月行うカンファレンスにて情報を共有しながらケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の必要物品の代理購入や買い物、必要に応じた通院等、その都度発生するニーズに応じられるよう柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もともと暮らしていた地区の地域資源を活かすにまでは至っていない。地域との交流機会を増やしながら、個々の生活に活かせる地域資源を探していく必要がある。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点でご本人様、ご家族様と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。又、専門的な受診が必要な場合は、主治医の指示に従い管理者及び計画作成担当者が家族と相談し対応している。	家族付き添いを基本とし、以前からのかかりつけ医を受診することもできる。協力医療機関は月2回訪問診療を行っている。内科以外の通院も家族付き添いを基本としているが、家族が付き添えない場合は、常勤の看護師が同行し、受診結果を家族と情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が入居者様の状態を報し、適切なケアや医療を受けられるよう協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	適切な情報提供ができるよう介護サマリーを用いて日頃の様子や経過の情報提供を行っている。又、病院の医療連携室とも情報の共有を図り、状況に合わせた対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が認められた際には、主治医の主導のもと、ご家族様への説明を行う。その際に事業所として行えること、方針を伝えている。終末期のケアは行っていない。	看取りは行っていない。入居時に「看取りに関する指針」でホームでできること、できないことを説明している。重度化した時は医師から説明があり、家族と話し合いながら病院や他の介護施設と連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応マニュアルを用いての勉強会を実施。又、急変時に備えて救急車の要請訓練も定期的に行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。また、運営推進会議にて地域の方々のご意見をいただき、協力体制を築いている。	火災・風水害・地震対応マニュアルの他に津波災害対応マニュアルも設け、町のハザードマップを掲示している。年2回、避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で行っている。津波災害時には隣の同法人の小規模多機型居宅介護「コスモス松島マルチケア」の2階に垂直避難する。非常食や備品は2階に3日分保管されている。設備点検は、年2回業者が行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護、プライバシー、認知症に関する勉強会をマニュアルを用いて定期的で開催し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	毎年、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼び名は苗字か名前に「さん」を付けて呼んでいる。トイレへの誘導は羞恥心に配慮し、声がけを工夫しながらさりげなく行っている。居室に入室時はノックと声がけで確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声を掛ける際に思いや考えを引き出し、必要に応じては選択肢を与え、自己決定ができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の特徴を把握し、その方に合ったペースにて生活できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服等、できる限り自身で選定していただき、身だしなみを整えられるよう配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日を含む行事食を取り入れ、一緒にメニューを考え、提供を行っている。又、食器洗いや食器拭きを可能な限り入居者様に行ってもらっている。	朝食と毎食のご飯と味噌汁は手作りし、昼・夕飯のおかずはチルド食を利用し提供している。入居者は、盛り付けや後片付けなどできることを担って、職員と一緒にしている。行事食や季節の郷土料理、誕生日には本人の好きなメニューを用意しケーキでお祝いしている。庭の畑で収穫した夏野菜や白菜、じゃがいも等も食材に取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完調品を使用し、栄養のバランスがとれた食事を提供。又、医師による指導があった際にはその方に合わせた量で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。汚れが目立つ際には、必要に応じて職員が支援を行う。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケアカルテや紙の書式を使って排尿パターンの把握に努めている。又、個々の残存能力に配慮しながら、介助の程度を決め、統一したケアに努めている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけや誘導でトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は、睡眠を妨げないよう大きめのパッドを使用したり状態に合わせて対応している。転倒防止対策としてセンサーや見守りシステムを導入している。便秘対策として朝食に牛乳やヨーグルトなど乳製品を提供している。水分摂取量のチェックや運動も取り入れているが、状態により看護師に相談して医師から薬を処方される人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の習慣に軽体操を加えて、便秘の解消に努めている。又、水分補給がどの程度行えているか、ケアカルテや紙書式を使って把握し、補給量の把握に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な曜日は決定しているものの、その日の状況やご本人様の意思に合わせて曜日、日にちの交換を行っている。	週2～3回を基本に入浴しており、湯はたし湯で一人ひとりの好みの湯温に合わせている。入浴を嫌がる人でも声かけなど工夫して促すと、ゆっくり気持ちよく入浴を楽しんでいる。本人の状態に合わせて、安全に配慮しながらリフト浴やシャワー浴、足浴での対応もしている。入浴後は、皮膚の状態を確認し刺激の少ない保湿クリームを塗ってケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の習慣を聞き取りやケアカルテのデータから導き出し、適時適当な休息が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に内服薬は職員管理となっている。服薬内容は毎月受薬する際に服薬表を薬剤師より受け取り、職員がいつでも確認できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に合わせて、家事手伝いやレクリエーションの参加方法を変えている。又、行事は季節の合わせたものを提供して、月に1回程度定期的に楽しみな機会を設けている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族対応での外出等は要望に沿って対応できている。施設としては全体での外出行事などを企画しているが、体制上実施回数は少なかった。今後は希望時にスムーズに対応できる体制作りを行っていく。	コロナ禍以降、年間計画していた外出を自粛している。天気の良い日は車いすの人も一緒に、近所を散歩しており、春には桜並木を散策し楽しんでいる。近所のお店に買い物に行ったり、ウッドデッキに出て日光浴をしたり、畑で野菜を育てるなど、外に出る機会を設けている。家族と通院時にドライブや外食を楽しんだり、外泊する人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員管理となっている。しかしながら、ご本人様に欲しいものがあれば、所持金額に合わせて、自由に購入を行うことが出来るように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの連絡はいつでもご本人様に繋ぐことが可能としている。又、ご本人様から自宅に連絡がしたいとの要望があれば、ご家族様確認のもとで、連絡がとれるよう配慮している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ季節を感じることができるような作品を入居者様と一緒に手作りし掲示している。又、足元が暗くならないように、明るめの蛍光灯を使用し、入居者様が見やすい空間作りに努めている。	日当たりの良い広いリビングは、ウッドデッキに繋がっており、天気の良い日にはひなたぼっこが楽しめる。日中リビングで多くの利用者が一緒に過ごしている。壁には時計・日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けられ、入居者と一緒に手作りした作品が飾られている。毎日、食事の献立を大きく掲示し利用者の楽しみになっている。温・湿度は環境係が管理し、換気は午前と午後の2回行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるようにお互いの性格に配慮しながら席の位置を決めている。又、ユニットには小上がりがあることから、入居者様が思い思いに利用し、プライベートの空間として利用することもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使いやすいよう、定期的に物の配置を再検討し、過ごしやすい空間作りに努めている。又、使い慣れたもの、慣れ親しんだものを施設の持ち込んで設置している。	見当識に配慮し、入口に表札を掛けている。居室にはベッド・クローゼット・エアコン・カーテンが設置されている。入居者はタンス・机・椅子など馴染みの物を持ち込んでいる。家具などは、本人の希望や動線を考慮して配置している。壁には家族の写真や作品など飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには扉にプレートを張り分かりやすく表記している。又、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		